令和６年度第１回北九州市子ども読書活動推進会議　会議録（要旨）

１　日時　　令和６年８月８日（木）１４：００～１５：３０
２　場所　　北九州市立子ども図書館２階　大研修室

３　出席者
［委　員］　（敬称略）
山元　悦子、矢崎　美香、河井　律子、本田　壽志、上満　佳子、小島　松美、中村　仁、黒田　玲子、久間　猛、仲　紀子、尾場瀬　淳美、内藤　稚代、山中　啓稔、鶴田　弥生　計１４名
［事務局］　教育委員会中央図書館長神野洋一　他１０名

４　議事
（１）「北九州市子ども読書プラン（第４次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組状況について
（２）次期プラン作成に向けての検討課題について

５　主な質疑応答
【議事１】「北九州市子ども読書プラン（第４次北九州市子ども読書活動推進計画）」の取組状況について
（委員）　資料２（１）家庭における読書活動の推進について。はじめての絵本事業が保健師からの手渡しになったのは良いと思う。配布物に図書館カード申請書やチラシなどがあるが、読み聞かせを行っている地区図書館・親子ふれあいルームなどの子育て施設・市民センターなどの案内は行われているのか。
（事務局）　配布物は記載のとおりで、読み聞かせに関する案内は入っていない。これまでは絵本を渡すところでとどまっていたが、これからは図書館の利用促進を進めていきたいと思っている。読み聞かせの案内については、検討したい。
（委員）　フェイストゥフェイスで保健師が訪問してアドバイスをするのは良いきっかけになるので、配布物のみならず、読み聞かせの情報などを伝えられるように、保健師に情報提供していくことも考えてみてはどうか。
（委員）　訪問する際に配布物を渡すだけなのか、こどもにとって読書は大切ですよとレクチャーしているのか。本来この事業は、絵本を手渡すだけではなく、絵本を使ってこどもとのコミュニケーションをとるやり

方などを伝えていくことに意味があるので、そこまでフォローされているのかが気になる。

（事務局）　現在は、絵本パックを保健師に配布してもらうことにとどまっている。事業本来の読み聞かせをして渡すという方法は、後々できるようになるか検討しているところである。今回の絵本パックの配布物の内容や配布方法の変更は、その前の一歩ととらえていただければと思っている。

（委員）　私のグループに八幡東区役所の保健師がいる。この件は以前から発言してきていて、少し近づいてきたと思うが、今はまだ渡すだけのようだ。読み聞かせをしているこどもの顔や表情を親が見るというのも一つの趣旨なので、そこを保健師に伝えれば、伝えてくれるのではないか。読み聞かせをしている保健師も少なからずいるので、一歩近づいたとうれしいことではある。

（委員）　趣旨を説明するだけではなく、絵本を届けているので、その絵本を使って、母親に読み聞かせの体験をしてもらってはどうか。家で読んで聞かせることがとても大事。理論だけはなく実践が大事なので、保健師が読むのではなく、母親に読んでもらうように、強制する必要はないが、すすめてもらうような取組みはいかがか。

（委員）　いろいろな家庭があるので難しいかもしれないが、前向きに検討していただきたいと思う。

（委員）　資料２（４）地域における読書活動の推進について。市立の学校や施設との連携はすすんでいて素晴らしいと思う。市内のこどもに関する施設として、子どもの館・子育てふれあい交流プラザ・ジアウトレット内のアソブルなどで、こどもと一緒に遊んでいるという話をよく聞くので、連携の機会を増やしてもらえるとありがたい。

（委員）　子育て関連施設との連携について、例えば幼稚園とのイベントについてなど、何か具体的なアイデアがあれば教えていただけないか。

（委員）　私立幼稚園連盟では、子育て支援の一環として未就園児のイベントなどをしている。そのような機会に、読み聞かせボランティアの派遣などをしていただけるとありがたい。それにより積極的にボランティアの方々のご活躍の機会を作れたらと思っている。

（委員）　資料２（３）市立図書館における読書活動の推進について。成果指標にもあがっていた子ども司書やジュニアサポーターが、学校や地域における「読書リーダー」として活躍しているとのことだったが、具体的にどのような活動をしているのか。せっかくこのような研修をしているので、その後の活動につなげられているのか、伺いたい。

（事務局）　子ども司書養成講座の受講修了者の活動については、学校に任せているが、各学校図書館での読み聞かせ、図書館の本を紹介するポップ作り、図書委員として活動を推進したなどの報告を学校から受けている。現在のところ、活動の場は学校に限られている。

　ジュニアサポーターについては、ホームページで一般に募集をし、子ども司書の受講者にも案内をする。半数以上が子ども司書養成講座の経験者で、戻ってきてくれていると感じる。ただ、ジュニアサポーターの活動は、子ども図書館に限られているので、各地区図書館での活動などを検討していかなければならないと思っている。

（委員）　ジュニアサポーターは応募すれば全員受け入れられているのか。

（事務局）　高校３年生が卒業していくので、そのあとに受け入れられている。今年度は４６人で活動している。

（委員）　ジュニアサポーターに、おはなし会の読み聞かせのお手伝いを要請できないか。

（事務局）　土日の活動日に、子ども図書館で開催されるおはなし会のお手伝いはできると思う。現在も見学などさせていただいている。

（委員）　子ども図書館以外の場所でも可能か。

（事務局）　現在は、子ども図書館内での活動に限定しているため、外に出るためには保護者の確認が必要になる。

（委員）　子ども文化会館で月１回活動しているので手伝ってもらえると助かる。第４土曜日の午前中、保護者の方に連れてきていただき、絵本を読んだり、紙芝居を一緒にしてもらうなどお願いできるのか。もしくは、子ども図書館での活動であれば大丈夫か。

（事務局）　子ども図書館でのお手伝いについては可能、図書館外での活動については検討させていただきたい。

（委員）　子ども図書館でのイベントに参加してもらえば、卒業後の実際のボランティアメンバーの育成にもつながると思うので、その方向で善処していただきたい。

（委員）　子ども司書養成講座で学んだ後、各学校での活動を報告書で提出してもらうとのことだったが、学校に戻ってから何らかの成果につなげた、活躍したということを、報告会で発表するなどして、お互いに刺激し合い、次のステップにどうつなげていくかを考えてはどうか。社会教育委員会議では、よく学びと実践の循環の話になるが、学ぶだけではなく実践をスパイラルアップしていくのがベターかと思った。

また、「若者の読書離れ」というウソ、という本の中で、若者の図書館利用が少ない中で、公共図書館でのＹＡ向けの図書の選書を中高生に手伝ってもらうと、貸出冊数が延びていく事例があるとのことだった。学校だけではなく、このような地域での活躍の場もあるのかと思った。

（委員）　子ども司書が学校に戻ってから、取組みの報告書をあげるだけではなく、成果を整理してフィードバックして活用すると、各学校にもいい情報が伝わるのではないか、中高生に選書の機会を持ってもらうことで、よりニーズに応じた選書ができるのではないか、という提案２点、前向きに、ご検討ください。

（委員）　こどもたちに、学校に戻ってから何かをしましょうと言っても難しい。各学校には司書教諭がいるので、こどもと一緒に何かをして、面倒を見る大人が必要だと思う。司書教諭とこのあたりの話をしてはどうか。

また、子ども図書館ができた時に、こどもたちが自ら活動するという旗を掲げていた。子ども図書館で持続的に活動できる北九州子ども図書館ＹＡ部のような部活的なことをして、こどもたちが活躍している様子が見えると、少し子ども図書館が元気になるのではないか。近隣の中学校の掲示物やビブリオバトルなどのイベントはあるが、通常動いている姿が見えてこない。図書館自体が、ティーンズのことについてもう少し勉強したほうがいいのではないかと思う。今、ＹＡの勉強をしているが、中高生・大学生がオンラインの講座でも発言している。そういうこどもたちが活動することによって、周りの同じ世代のこどもたちも動き出す。イベントではなく持続的に活動できるように、こどもの読書を支える大人たちが周りでバックアップしてあげることが大事ではないかと思う。

（委員）　報告書は司書教諭レベルの方があげるのか。

（事務局）　学校図書館職員、中学校の国語科の先生、小学校では図書館主任、担任などが関わっている。報告書の提出については、学校あてに文書を出しているが、司書教諭・学校図書館職員にも協力を働きかけたいと思っている。

（委員）　委員がいつも言われるように、子ども図書館が継続的な活動の場として機能すると本当に素晴らしいと思う。集まりにくいこともオンラインを活用すればできるので、具体的なイメージなどをまた後で係長に話されて子ども図書館がさらに充実するといいと思う。

（委員）　子ども司書やジュニアサポーターを支える環境について。小学校の学校図書室を見学しているが、学校司書が変わるとがらりとイメージが変わる現場がある。司書教諭や学校司書のスキルや知識レベルに大きく差があるので、子ども司書やジュニアサポーターの活躍が活かしきれてないのではないか。研修のあり方、司書教諭や学校司書のレベルを把握されたほうが、こどもたちを活かせるのではないか。できれば、ご検討いただきたい。

（委員）　各学校の実情については、小学校・中学校の校長の委員の方、情報提供いただけますか。

（委員）　個々人のスキルや知識レベルの差は確かにあるが、研修会の機会がたくさんあるので、司書に声をかけて勉強してきたことの聞き取りをしている。課題を持ち帰って、わからないところを図書館主任にたずねたりして、つながりができているようで、研修はありがたい。

（委員）　まずは研修会でレベルアップを図るということが考えられますね。中学校ではいかがでしょうか。

（委員）　私の学校では、子ども司書養成講座でどんな勉強をしてきたのかを発表をする場を設けて、全校生徒に伝えさせている。司書教諭や学校図書館職員と一緒に活動をしているが、なかなか広がっていかない。講座に毎年参加しているわけではないので、継続的にできないところが課題かと考えている。

（委員）　子ども司書養成講座は、各中学校１名等の継続的なものなのか、募集なのか。

（事務局）　６０名の定員に今年は９０名以上の応募があった。抽選して決めるが、各校からは１名以内となる。

（委員）　各校一人ずつの定員は難しいのか。

（事務局）　約２００名になるので難しい。

（委員）学校司書や司書教諭に対して、子ども司書で学んだことを活かして、こどもたちが活躍できるようにするための研修が必要ではないか。司書は短期間で熟練した司書になるわけではなく時間がかかる。年数を重ねながら司書を育てるための研修があるといいのではないか。専門的な研修は先生方にお任せするが、子ども司書の活躍やジュニアサポーターが実践経験を積んでいくためのサポートは、私達、読書ボランティアができると思うので、何なりとお申し付けいただければご協力したいと思う。

（委員）　毎年、子ども司書やジュニアサポーターの読書リーダーが育つが、一年で完結しているように見える。このこどもたちが続けていって、集団で一緒に活動できると、学校に戻って一人で活動するよりも動きやすいし、負担も減るのではないかと思う。去年受けたこどもが今年はどうなっているのかが気になるところである。

　また、図書館と学校教育の部署が話し合って、子ども司書やジュニアサポーターの公の形のしくみを作れば、司書教諭や学校司書が、それは自分たちがやらなければならない仕事だと受け止めて対応できるのではないかと感じた。しくみづくりが大変なことは承知しているが、これがあるか無いかで大きく違うのではないかと思う。

（委員）　子ども司書養成講座について、単発的ではなく長期的・継続的に発展するようなシステム化をぜひ図っていただきたいと思う。

（事務局）　子ども司書養成講座を卒業した高校生のジュニアサポーターに、今年初めて講座を手伝ってもらい、受付や、ポップ作りの道具を配ったりしてもらった。継続できるような計画ができるといいと思う。また、昨年卒業したこどもが一人、司書になると言って、九州女子大学に進学した。つながりができてくると良いと思っている。

【議事２】次期プラン作成に向けての検討課題について

（委員）　作成スケジュールとしては、次年度２回目くらいで原案作成になるのか。

（事務局）　進捗状況によって変わってくるが、次回にたたき台をお示しし、その次に素案ができることを理想としている。

（委員）　資料３の次期「北九州市子ども読書プラン」の策定に向けての中で、着目すべき課題として、(1)きかっけづくり(2)読書や学習活動への支援(3)やすらぎの場（居場所）づくりの３点があげられている。これらに関して自由にどこからでもアイデアをいただければと思う。

（委員）　つくづく図書館の役割が大きいと感じている。図書館の居場所づくりに関わってくることだが、地域学校協働活動推進員をしている中で、どうしても学校の中に入れないという中学校の不登校のこどもたちを地区図書館で受け入れていただけないかという話をしている。図書館からは大丈夫だと言われているが、まだ一歩進めていない状況。調べ学習や何かについて知りたい広めたいこどもたちにとって、Ｗｉ-Ｆｉの環境が整っていないことがネックになっていると思う。

また、２年後くらいに部活動が地域移行するということで、スポーツばかりがクローズアップされているが、文科系のこどもたちにとってもチャンスととらえて、地域でどう関わっていくかを考えている。北九州市が中学校の読書クラブに力を入れていけたら、いろんなことが解決し良い方向に向かっていくのではないかと思う。それに向けて、図書館や地域の環境整備について、少しプランの中に盛りこんでいただけたらと思う。

（委員） Ｗｉ-Ｆｉの環境づくりは、予算さえあれば、すぐにでも取り組めそうだ。図書館が中学校の文化部の受け皿になるというのは、斬新なアイデアだが、文化部系の部活の移行というのは、実際可能なのか。

（委員） 部活動を地域でということになると、読書部は図書館に、囲碁将棋などは市民センターなどに協力を仰ぐことになるのではないか。本当に真剣に、地域でこどもたちを受け入れる覚悟が必要だと思う。

（委員） 地域移行は土曜日曜のみで、平日は学校で活動するので、全部の移行は難しい。

（委員） それでスポーツばかりがクローズアップされるが、帰宅部のこどもたちが土日に図書館で読書部として活動したことを、学校として認めてもらえて内申書にも書けるとチャンスになるのではないか。地域には人材が揃っているので、ゲストティーチャーとして関わってもらうのも良いと思うが、その拠点が図書館となってくるので、環境整備をお願いしたい。

（事務局） 土日の地域の受け皿としては、北九州市では、昨年度、漫画ミュージアムの地域マンガクラブに美術部のこどもが集まって活動をしたという例がある。九州国際大学も吹奏楽の受け皿を作って取組みを行っている。図書館についても読書活動の受け皿ができるかどうか検討の余地はあると思っている。

（事務局） 委員のおっしゃることはよくわかる。文化部の受け皿としての器の部分は、図書館としてご協力したいと思っている。人の部分で、文化部的な活動を支えてくださる方がいれば、ぜひとも図書館でも一緒にやらせていただきたいと思う。

（委員） 先ほどのＹＡの部活動的な話もあったが、この件については、この場でつめるのは難しいので、関連の方たちと話合いを持って、具体的な活動支援の一歩がスタートできればよいと思う。

（委員） きっかけづくりに対するＰＴＡからの提案。ＰＴＡ協議会では、この秋からＤＸ事業の推進をすすめており、協議会から各単位ＰＴＡの

全ての保護者まで情報が届くようなことを計画している。情報を末端の会員まで届けることができるので、このしくみを上手く活用していただきたい。また、年に数回、子どもフェスタというイベントを開催しているので、そちらに足を運んでいただいて、そこでＰＲをすることもできる。数千人のこどもが集まるので、ぜひ活用してほしい。

（事務局）　情報の提供先は会員の方限定ということか。

（委員）　任意加入問題で３４校でＰＴＡに入っていない保護者もいるが、それ以外の保護者とはつながろうとしているところ。学校の協力も仰ぎながら、つながれば数万人の家庭に一度に周知することができるので、ご活用いただきたいという提案である。

（委員）　貴重な情報流通ツールを積極的にご利用いただきたいとのご厚意、ぜひご活用ください。

（委員）　いろいろと策を練っておられるが、子ども電子図書館の利用率が８月までは伸びるが９月から落ち込むとのこと。予約が多い本に関して電子書籍にもありますよというのは、どういう流れになるのか。

（事務局）　ホームページにその内容の告知をしている。

（委員）　例えばアマゾンで本の購入をする場合、ｋｉｎｄｌｅ版と書籍版があって、ｋｉｎｄｌｅ版にもどうぞというふうに流していく。このようなシステムだと電子書籍の利用も増えると思うので、インターフェースのつくりができればと思った。

（事務局）　個々の図書について、そこまではできていないのが現状である。ホームページのトップページで告知をしているので、利用者はインターネットで蔵書検索をして予約が多かった場合、電子図書館でも検索してみて、あればすぐに借りられるので試してみてくださいという流れになる。

（委員）　電子書籍の利用率をあげるアイデアがあればいただきたい。

（委員）　小中学校で配られているタブレットと図書館との本の貸借に関する連携について。他の自治体で行っているところもあるが、集団読書というのかクラス全員で同じ本をタブレット見るというもの。これはとても高額らしいが、図書館が準備しておいて授業などで使うという方法もあるのではないかと思っている。

　それから、子ども電子図書館だが、大人のものも集めるという報告があったが、中央図書館と子ども図書館の電子書籍の協力関係はどのようになっているのか。

（事務局）　学校における電子図書の閲覧については、２学期から中学校で実施される予定なので、説明をお願いしたい。

（委員）　小学校１年生で配られた電子図書館のＩＤは中学生はほとんど持っていない。子ども図書館に依頼してＩＤを再交付してもらい、わが校は全員持っている。９月から電子図書を活用するということで、行事予定に入れている。市や区の校長会でＩＤがなければ再交付の申請をして使ってくださいとお願いをしているが、まず石峯中学校で実際に使ってみて状況をみて、良いものだというアナウンスをしていかないと広がっていかないと思っている。向洋中学校もＩＤの再交付を受けたので、貢献できるかと思う。

（事務局）　このように積極的に盛り上げていただける学校はまだ少ないので、貴重な取組みをされていると思う。私どもも学校に告知をして、広めていきたいと思っている。大人向けの書籍ついては、中央図書館の奉仕課と連携しながら選書をすすめていくように考えている。

（委員）　まずＩＤがなければ進まないので、中学校に積極的に再交付を働きかけていただくと、きっと効果がみえてくると思うので期待している。

　時間が少なく語りつくせなかったと思うが、新しい計画についてアイデアがある委員の方は、メールでもご意見をお寄せください。

（事務局）　貴重なご意見ありがとうございました。みなさまからいただいたご意見を参考に、次期プランの改定に向けて検討作業に入るので、ご意見やお気づきの点があれば、またメールでもいただければと思っている。今後は、第４次プランの成果と課題、今後の取組みの方向性等を検討して、次の会議でできるだけ大きな概要、たたき台的なものがお示しできればと思っている。それから具体的な改定作業となるので、今後もご協力いただきたい。

（委員）　みなさま積極的かつ建設的なご意見をありがとうございました。